

JAERI-M

6071

熱群セル計算コードの改良
(THERMOS-JMTR)

1975年3月

飯田 浩正・永岡 芳春

日本原子力研究所
Japan Atomic Energy Research Institute

この報告書は、日本原子力研究所が JAERI-M レポートとして、不定期に刊行している研究報告書です。入手、複製などのお問合せは、日本原子力研究所技術情報部（茨城県那珂郡東海村）あて、お申しこしください。

JAERI-M reports, issued irregularly, describe the results of research works carried out in JAERI. Inquiries about the availability of reports and their reproduction should be addressed to Division of Technical Information, Japan Atomic Energy Research Institute, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki-ken, Japan.

熱群セル計算コードの改良

THERMOS-JMTR

日本原子力研究所大洗研究所材料試験炉部

飯田浩正・永岡芳春

(1975年2月13日受理)

J M T R で照射されるキャブセルには、高濃縮ウラン燃料、高プルトニウム富化燃料、あるいは毒物入り燃料のように、中性子吸収断面積の非常に大きな試料を含むものがある。この様なキャブセルの熱群定数は在来の THERMOS コードでは精度良く求める事ができない。その理由は、中性子吸収断面積のあまり大きな物質がセル内に存在すると輸送核の数値計算に問題が出て来て、積分型輸送方程式が精度良く解けないからである。我々は THERMOS コードの輸送核の数値計算法に改良を加え問題の解決を図った。その結果、計算結果として得られる熱群定数の数値計算上の誤差を在来の THERMOS コードの約 $1/7$ にする事ができ目的を達した。

また、その他入出力形式に若干の変更を加え、J M T R の核計算に便利なものとした。

The Revised THERMOS Code "THERMOS - JMTR"

Hiromasa IIDA and Yoshiharu NAGAOKA

Division of JMTR Project, Oarai, JAERI

(Received February 13, 1975)

The capsules irradiated in the JMTR frequently contain fuel samples of large absorption cross sections such as highly enriched uranium, high plutonium-blending and burnable-poisoned fuel. The original THERMOS cannot give thermal group constants for these capsules with high accuracy. This is mainly because the material of large neutron absorption impairs calculation of the transport kernel. Therefore improvement has been made in computing process of the transport kernel in the code THERMOS - JMTR. Calculation errors of the thermal group constants obtained are thus as small as one-seventh of those by the original THERMOS.

Some modification was also made in input/output for convenience in the JMTR core calculation.

目 次

まえがき	1
1. THERMOSコードで解く積分型輸送方程式	2
2. 円筒計算の輸送核計算精度の改良	4
2.1 円筒形状輸送核計算法	4
2.2 円筒形状輸送核計算法の問題点	6
2.3 円筒形状輸送核計算法の改良	7
2.4 プログラム改良前後の比較	9
3. 燃料集合体の熱群定数計算のための出力形式変更	12
4. 計算結果のブロックによる図示	14
5. 入力形式	15
6. 変更後のプログラムリスト	19
あとがき	35

まえがき

THE RMOSには、原コードBNL-THERMOSを改造したものが幾つかある。しかし、JMTTRでは年間6サイクルの運転に伴い、毎年100本以上の多種多様のキャブセルの熱群定数をTHERMOSで求めているが、現存するTHERMOSは我々の使用目的に必ずしも合っていない。それで我々の使用目的に合うようTHERMOSを改良することとした。THERMOSをJMTTR炉心の核計算に使用する場合の問題点及びその改良点は次のとおりである。

1) 高濃縮の燃料、あるいは可燃性毒物を含んだ燃料が試料として装荷された場合、その試料の照射中発熱量推定値は普通の低濃縮燃料試料の場合に較べて精度が悪くなる。それは熱群の定数に信頼性が無くなっている事によっている。一般にTHERMOS等で熱群定数を計算する場合、中性子との反応断面積が大きな物質を含む領域は空間分点数を大きくしてやらなければならない。つまり核燃料物質や毒物質を含む領域はアルミニウムやシリコニウムなどの領域より細かく空間分点をとらなければならない。しかしTHERMOSで採れる空間分点数は、計算機容量、計算時間等の関係で精々25点位であり、これでは不足する場合がある。特にJMTTRでは、燃料試料はキャブセル中に装荷し、そのキャブセルを含む反射体要素一本(77.2mm²)を一つのセルとして計算するため、燃料試料外部に相当な空間分点を採らなければならず、燃料試料部に割当てられる空間分点数は3~6点程度に制約され、数值計算上の問題が出て来る。THERMOSコードの解いている積分型輸送方程式自体は殆んど仮定を含まず、これを正しく解く事さえ出来れば正しい中性子密度分布が計算されるはずであるから、この数値計算上の問題を解決する事は重要である。我々は輸送核の計算法に改良を加える事によりこの問題の解決を図った。

2) 燃料集合体試料(OWL-1, 2等)についての熱群定数は次の様な計算法によって求めている。THERMOSによる計算を、初めは燃料ビン1本を含む領域(サブセル)について行い、次にセル全体について行うという2段階方式である。しかし2度行われた計算結果を比較してみると、同じ領域のエネルギースペクトルに喰い違いがあるなど論理的に矛盾が多い。これはサブセルについて行った計算結果をセル全体のTHERMOS計算にインプットする方法に問題があるからである。サブセルについて行った計算結果を仮想的な核種の散乱核、吸収断面積、核分裂断面積等としてカードの形で出力できる様にしこの問題を解決する。これによってOWL-1, OWL-2に燃料試料が装荷された場合も満足な熱群定数が求められる様にする。

3) 多種多様のキャブセルの群定数を期限内に誤りなく求める事が必要であるため、THERMOSの計算結果を見て、インプットデーターに誤りが無かったかどうか即座に判断出来る事が望ましい。その資料として計算結果(中性子密度の空間分布)をプロッタで図示する事を考えた。また、照射依頼者にキャブセル内中性子密度の空間分布を聞かれる事が多いためTHERMOSにより自動的に作成しておく事は有益である。

1. THERMOS コードで解く積分型輸送方程式

熱群中性子の密度分布を求める積分型輸送方程式は次式で与えられる。

$$N(r, v) = \int T(r, r', v) [S(r', v) + \int_0^{v^*} P(r', v, v') N(r', v') dv'] dr' \quad (1.1)$$

式中の記号は次の様な意味を持っている。

r 空間座標

v 中性子の速度。 v^* は計算する熱群中性子の上限速度。

N(r, v) 空間 r における速度 v の中性子の密度であり、(1.1) 式を解いて求められる。

(1.1) 式の解き方は右辺に仮りの $N(r, v)$ を代入し左辺に新しい $N(r, v)$ を求め、それを更に右辺に代入しまた新しい $N(r, v)$ を得る。これを繰り返し $N(r, v)$ として収束した値を得た時これが(1.1) 式の解となる。

P(r', v, v') 空間 r' において速度 v' の中性子が媒質と衝突して速度 v の中性子が生れる確率であり、ライブラリーテープに貯えられた各核種の散乱マトリックスに、空間 r' におけるその核種の個数密度を乗じて作成される。したがって(1.1) 式中の積分 $\int_0^{v^*} P(r', v, v') N(r', v') dv'$ は、単位時間に、空間 r' において熱群中性子の散乱により速度 v の中性子が生れる量である。

S(r', v) v^* 以上の速度を持った中性子が、空間 r' において媒質と衝突し速度 $v (< v^*)$ の中性子が生れる単位時間当りの量である。したがって(1.1) 式中の

$[S(r', v) + \int_0^{v^*} P(r', v, v') N(r', v') dv']$ は、単位時間に空間 r' において速度 v

の中性子が生れる量を意味している。 $S(r', v)$ は次式で計算される。

$$S(r', v) = \int_{v^*}^{\infty} P^+(r', v, v') N^+(r', v') dv' \quad (1.2)$$

$$N^+(r', v') = S_d(r') \times \left(\frac{v^*}{v'}\right)^2 \quad (1.3)$$

$$P^+(r', v, v') = 0 \quad v < \alpha v'$$

$$= \frac{2v \sum S(r')}{v'(1 - \alpha^2)} \quad \alpha v' \leq v \leq v'$$

$$\alpha = \frac{M-1}{M+1}, \quad M \text{ は散乱媒質の質量数}$$

(1.3) 式の仮定は、 v^* 以上の中性子束スペクトルが $1/E$ の型をしているという仮定に相当する。

T(r, r', v) 空間 r' で生れた中性子が空間 r の中性子密度に寄与する確率であり、計算体系の形状、構成物質などに依存する。THERMOS コードでは時間の約半分を費してこれを求める、残り半分の時間で(1.1) 式を解き $N(r, v)$ を求める。 $T(r, r', v)$ は輸送核と

呼ばれており、 $N(r, v)$ の精度はこれを精度よく求められるかどうかに大きく依存する。この報告書は主に、 $T(r, r', v)$ の計算精度をあげる一方法について述べるものである。

(1.1) 式は拡散方程式と違い殆ど仮定を含んでいない。含んでいる仮定は大たい次の通りである。

- A. 中性子の運動は古典物理学的に考えて良い。
- B. 中性子同志の相互反応は無い。
- C. 中性子の媒質による散乱は、実験室系で見て等方的に起る。

これらの仮定は熱中性子炉では殆ど完全に成り立っていると考えて良いものである。

2. 円筒計算の輸送核計算精度の改良

2.1 円筒形状輸送核計算法

円筒形状輸送核の計算法は H O N E C K の原論文に詳しく説明されているのでここでは簡単に概略を述べる。

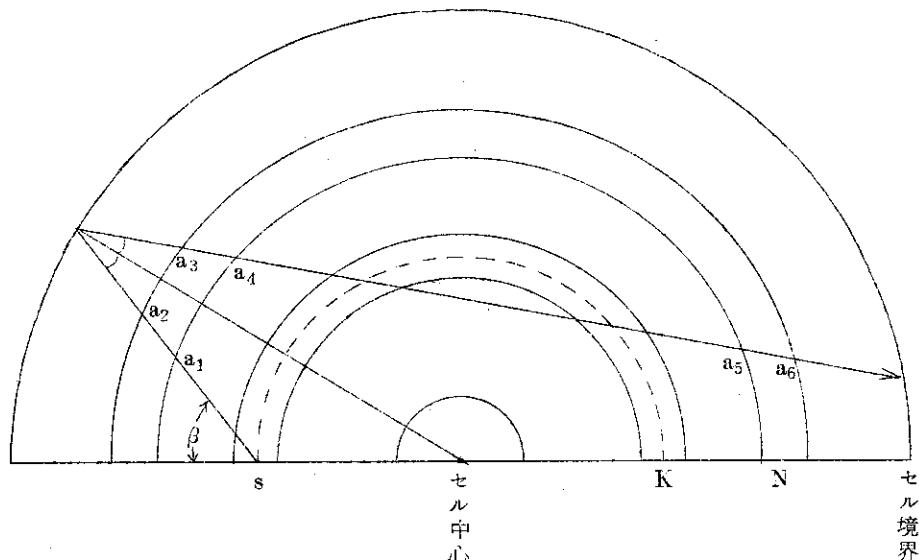


図 2-1 円筒形状セル内の中性子飛跡

図 2-1 は K 装で発生した中性子が角度 β の方向に飛び出し、その後辿る道筋を途中まで描いたものである。S 点から測った光学距離を、 a_1 まで λ_1 、 a_2 まで λ_2 、 a_3 まで λ_3 、……とするとき、S 点で発生し $\beta \pm \frac{\Delta\beta}{2}$ 方向に飛び出した中性子が a_1 と a_2 の間で初めて媒質と反応を起す確率は次式で与えられる。

$$f_{12}^{\beta} = \frac{\Delta\beta}{2\pi} \{ F(\lambda_1) - F(\lambda_2) \} \quad (2.1)$$

$$F(\lambda) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-\lambda \sec \theta} \cdot \cos \theta d\theta \quad (2.2)$$

同様に a_3 と a_4 の間で初めて媒質と反応を起す確率は

$$f_{34}^{\beta} = \frac{\Delta\beta}{2\pi} \{ F(\lambda_3) - F(\lambda_4) \} \quad (2.3)$$

である。 f_{56}^{β} 、 f_{78}^{β} 、……も同様にして計算される。

S 点で発生した中性子が N 装で初めて媒質と反応を起す確率 (G'_{NK}) は $0 \sim \pi$ の全ての β について上記の計算を行い加算する事で求められる。

$$G'_{NK} = \sum_{\beta} \{ f_{12}^{\beta} + f_{34}^{\beta} + f_{56}^{\beta} + \dots \} \quad (2.4)$$

K 装で発生した中性子が N 装で初めて媒質と反応を起す確率 (G_{NK}) は、S 点が K 装上に一様に分布しているとして計算しなければならないが、そうすると円筒形状の場合解析的に取り

扱う事が出来ない。すなわち $G_{NK} = \frac{1}{S_N} \int_{N\text{殻}} G'_{NK} ds$ であるがこの積分が出来ないのである。

そこで THERMOS では、 S 点が K 殼の中心線上にのみあるとして次の様に扱っている。

$$G_{NK} = G'_{NK} \quad (S \text{ 点は } K \text{ 殼の中心線上}) \quad (2.5)$$

同様にして G'_{KN} も計算されるが、次の理由により G_{NK} よりも精度が悪くなる（ N 殼は K 殼よりも外側にあるとする）。図 2-1 から見て分かる通り、 K 殼から出た中性子は必ず N 殼を通る。しかし N 殼を出た中性子は β の大きさによっては K 殼を決して通らないものがある。特に K 殼がセルの中心に近く、 N 殼がセルの外側に近い場合は殆んどの β について K 殼を通らない。 $\Delta\beta$ を無限に小さくし、無限に多くの中性子飛跡について計算出来ればこの事は問題にならないが、実際には計算時間の問題上 $\Delta\beta$ は $\pi/20$ 程度の大きさで行っており N 殼を出た中性子の飛跡が 1 本しか K 殼を通らない事も有り得る。従って G_{KN} は計算精度が悪いため、 THERMOS コードでは G_{NK} から次の式により求めて計算精度を上げている。

$$G_{KN} = (V_K \cdot \Sigma_K / V_N \cdot \Sigma_N) G_{NK} \quad (2.6)$$

V_K : K 殼の体積

Σ_K : K 殼の媒質の全中性子断面積

V_N : N 殼の体積

Σ_N : N 殼の媒質の全中性子断面積

(2.6) 式の関係がある事は、

1) 中性子が N 殼を出て K 殼に到達する確率と K 殼を出て N 殼に到達する確率との比は V_K と V_N との比である。

2) 反応を起す確率は全中性子断面積に比例する。

(1) 2 点から理解される。

THERMOS コードに必要な輸送核 T_{NK} は G_{NK} から次の式により計算される。

$$T_{NK} = (V_K / V_N \Sigma_N) G_{NK} \quad (2.7)$$

(2.6) 式を使わずに全ての輸送核を計算した場合輸送核は次の式を満している（ただしセルの境界条件は完全反射）。

$$\sum_N T_{NK} \left(\frac{V_N}{V_K} \right) \Sigma_N = 1.0 \quad (2.8)$$

この式は K 殼で発生した中性子はセル中のどこかで必ず反応を起さなくてはならない事を意味している。境界条件を完全反射とする場合これは絶対の条件である。しかし (2.6) 式を使って G_{KN} を、したがって T_{KN} を求めるため (2.8) 式が必ずしも成り立っていない。それで THERMOS では Q_K を次の様に定義し PRINT OUT している。

$$Q_K = \sum_N T_{NK} \left(\frac{V_N}{V_K} \right) \Sigma_N \quad (2.9)$$

従って我々は Q_K が 1.0 に近い事をもって G_{NK} あるいは G_{KN} の計算が精度良く行なわれている事を知る事が出来る。また逆に Q_K が 1.0 から離れる場合は精度の悪い計算をしていると考えなければならない。例えば Q_K が 0.6 であった時は、K 装で発生した 1 コの中性子がセル内で 0.6 コの反応しか起していない事を考えなければならない。この様な場合は輸送核の計算精度が悪いから結果として得られた中性子密度分布 $N(r, v)$ の信頼性も悪くなる。

2.2 円筒形状輸送核計算法の問題点

前節で Q_K が 1.0 より離れると G_{NK} 、従って T_{NK} の計算に数値計算上の無理がある事を述べた。この節では何故 Q_K が 1.0 から離れるかを述べる。

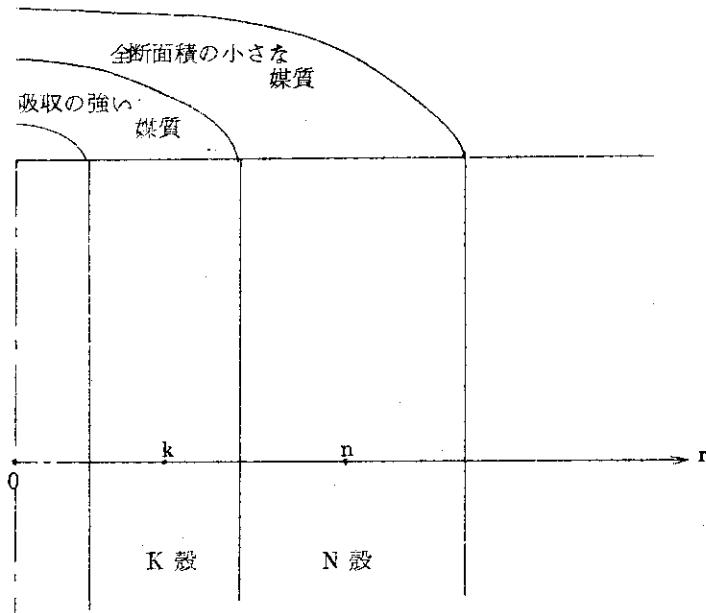


図 2-2 Q が 1.0 より小さくなる一例

図 2-2 に 1 例として反応断面積の大きい媒質の外側に反応断面積の小さい媒質がある場合の図を示す。n 点で発生し、セルの内側へ向う中性子は、その大部分が N 装を通り抜け K 装の表面で反応を起す。従って T_{KN} としてはかなり大きな値でなければならない。一方 k 点で発生した中性子はそのほとんどが K 装内で反応を起し N 装には到達しない。従って

$$T_{NK} \approx 0.0$$

である。また T_{KN} も T_{NK} から計算されるから

$$T_{KN} = T_{NK} \left(\frac{V_N}{V_K} \right) \approx 0.0$$

となってしまい、(2.9) 式を計算した時 T_{KN} が正しい値より小さく評価された分だけ Q_K が 1.0 より小さくなるのである。

この様な不都合は、中性子発生点を k 点、あるいは n 点のみとして扱う事から起る。そして輸送核の計算精度が悪くなるのは反応断面積の非常に大きな物質がセル内に存在する場合であると言える。我々の場合で言うと高濃縮ペレット、高 P_u 富化ペレット、可燃性毒物入りペレ

ット等を含むキャップセルについて計算する場合である。

2.3 円筒形状輸送核計算法の改良

前節で述べた通り、円筒形状輸送核の計算精度が悪くなるのは、中性子発生点を殻の中心線上のみにあるとして扱う事から起る。従ってこれを改良するためには中性子発生点が殻内に一様に分布しているとして輸送核を求めなければならないが、解析的にうまく扱えないため、便宜的方法を使った。すなわち、発生点が殻と殻の境にあるとした場合の輸送核も計算し、殻内での変化は適当な関数で近似し平均的な輸送核を求める方法である。

殻と殻の境に発生点がある場合も計算する事によって、 T_{NK} としては3つの値が得られる。

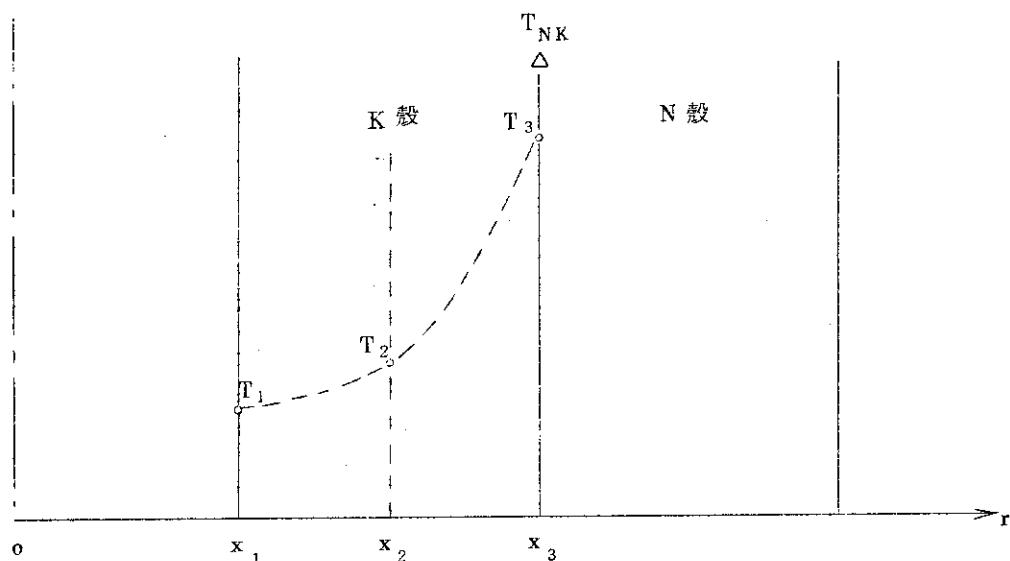


図2-3 殻内場所依存輸送核

図2-3に一例を示す。3つの値にN殻がら遠い方から各々、 T_1 、 T_2 、 T_3 と名前をつける。またセル中心から測った距離を、K殻の内側を x_1 、中心を x_2 、外側を x_3 とし次節の様に扱う。

2.3.1 T_{NK} ($N > K$)の計算

K殻内の中性子発生点を x とすると、 T_{NK} は次の様な関数となっているとする。

$$T_{NK}(x) = a \exp \{ b(x_3 - x) \} + c \quad (2.10)$$

ここで指数関数を選んだのは、(2.2)式が部分的に見れば指數関数と似ていらからである(図2-4)。 a, b, c は $(x_1, T_1), (x_2, T_2), (x_3, T_3)$ を $T_{NK}(x)$ が通る様に決められた定数であり次の様に求まる。

$$a = \frac{(T_3 - T_2)^2}{T_3 - 2T_2 + T_1} \quad (2.11)$$

$$b = \frac{1}{x_3 - x_2} \ln \frac{T_2 - T_1}{T_3 - T_2} \quad (2.12)$$

$$c = \frac{T_3 \cdot T_1 - T_2^2}{(T_3 - T_2) - (T_2 - T_1)} \quad (2.13)$$

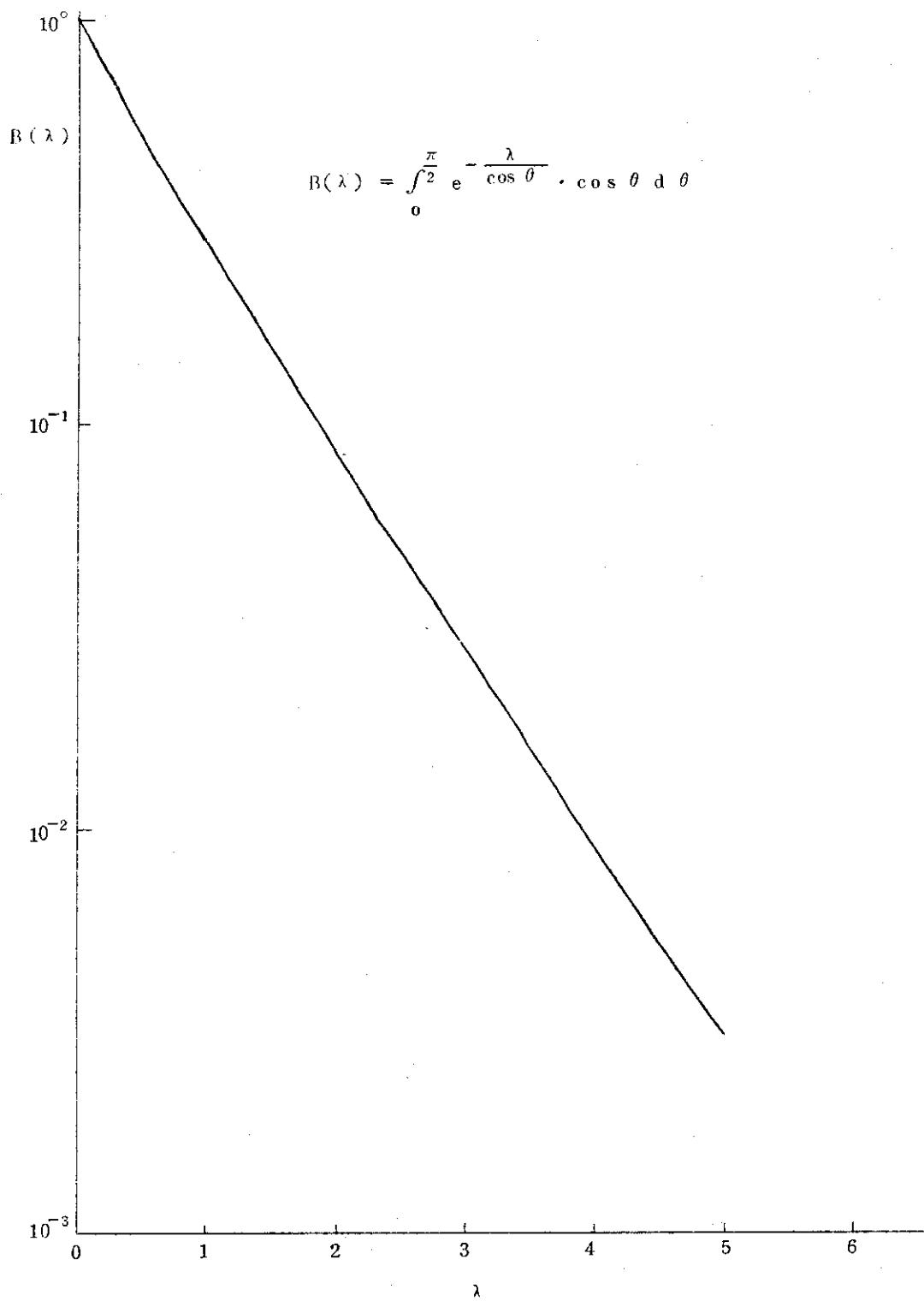


図 2-4 BICKLEY FUNCTION

T_{NK} を $T_{NK}(x)$ の平均値として求めると

$$\begin{aligned} T_{NK} &= \frac{1}{\pi(x_3^2 - x_1^2)} \int_{x_1}^{x_3} 2\pi x \cdot T_{NK}(x) dx \\ &= \frac{1}{(x_3 + x_1) \cdot t \cdot b^2} \{ (T_1 - c)(x_1 \cdot b + 1) - a(x_3 \cdot b + 1) \} + c \quad (2.14) \end{aligned}$$

この方法の問題点は T_1 あるいは T_2 が 0.0 とされている時の扱いである。 G_{NK} の計算は各 β についての中性子飛跡を辿りながら行うが、計算時間の関係上どこまでも辿るわけにいかない。現在のコードでは光学距離 $\lambda = 5.0$ まで辿り、あとは打ち切られる。従って全断面積の大きな媒質を含むセルの計算では T_1 , T_2 , T_3 が 0.0 とされる事がある。 $T_3 = 0.0$ の時は T_2, T_1 も 0.0 であり何の計算も必要なく $T_{NK} = 0.0$ である。しかし $T_3 \neq 0.0$ で T_1 あるいは T_1 と T_2 が 0.0 となる時は多少問題が残る。

2.3.2 $T_3 \neq 0.0$, $T_1 = 0.0$ の場合

$T_1 = 0.0$ となる場合は 2.3.1 で述べた方法では誤差が大きくなるし、更に T_2 も 0.0 となる場合は (2.12) 式で $b = -\infty$ となってしまい (2.14) 式で T_{NK} を求める事は不可能である。そこで、この様な場合は中性子発生点が殻の表面から内側になるに従って急激に輸送核 $T_{NK}(x)$ が小さくなる場合であるから、平均的輸送核 T_{NK} は次の式で計算できると仮定する。

$$T_{NK} = \frac{2\pi x_3}{S} T_3 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \int_0^{\infty} \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-\frac{\sum_t \cdot x}{\cos \theta \cdot \cos \varphi}} d\theta d\varphi \times \left(\frac{1}{\frac{\pi}{2}}\right)^2 \quad (2.15)$$

ここで

S : N 殼の面積

\sum_t : N 殼の媒質の中性子全断面積

x についての積分を先に行い次に θ, φ について積分すると、

$$T_{NK} = \frac{8x_3}{\pi S} \cdot T_3 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\cos \theta \cdot \cos \varphi}{\sum_t} d\theta d\varphi = \frac{8 \cdot x_3}{\pi \cdot S \cdot \sum_t} \cdot T_3 \quad (2.16)$$

となる。 $T_3 \neq 0.0$, $T_1 = 0.0$ の場合は (2.16) 式を使う事とする。

2.4 プログラム改進前後の比較

プログラムが改良されている事を確認するため、燃料ペレット、被覆管、減速材の 3 領域からなる極く小さな体系についてテスト計算を行ってみた。図 2-5 と表 2-1 に計算条件を示してある。空間分点数を、減速材領域 4 点、被覆管領域 1 点と決めてやると、燃料ペレット領域は最大 20 点までとれる。燃料ペレット領域の空間分点数を変えると、計算結果が変わってくるが、従来の THERMOS と THERMOS-JMTR では変り方がどの様に違うかを調べれば、プログラムが改良されているかどうかの判定ができる。

計算結果として $\nu \sum_t$ をとり、空間分点数を変数としてプロットすると図 2-6 の様になる。この図から分る通り空間分点数を充分とれる場合は、THERMOS-JMTR と従来の THERMOS は一致する。この時 THERMOS は積分型輸送方程式 (2.1) 式を充分な精度で解いていると言える。しかし空間分点数を充分とれない場合、従来の THERMOS は正し

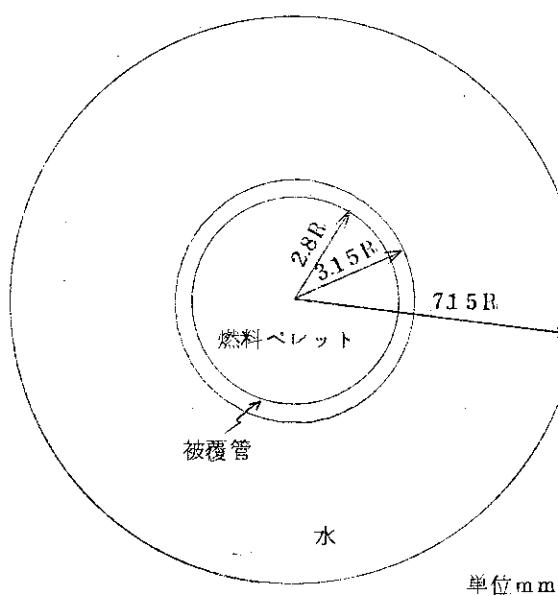


図 2-5 テスト計算モデル

表 2-1 計算条件

	第1領域	第2領域	第3領域
材質	高 P_u 富化, 高濃縮ウランペレット	SUS	水
厚さ (mm)	2.8	0.35	4.0
U^{235}	1.5400^{-2}		
U^{238}	1.7320^{-3}		
P_u^{239}	3.8630^{-3}		
P_u^{240}	3.6350^{-4}		
C_r		1.7603^{-2}	
F_e		5.8901^{-2}	
N_i		7.7997^{-3}	
H			6.6746^{-2}
O	4.8928^{-2}		3.3373^{-2}

 $\times 10^{24} \text{atoms}/\text{cc}$

い値に較べ著しく小さな $\nu \Sigma_f$ を与える。これに対し THERMOS-JMTR は、空間分点数が少ないと若干大きな $\nu \Sigma_f$ を与えるが、正しい値との差は小さくプログラムが充分満足できるものに改良された事を示している。

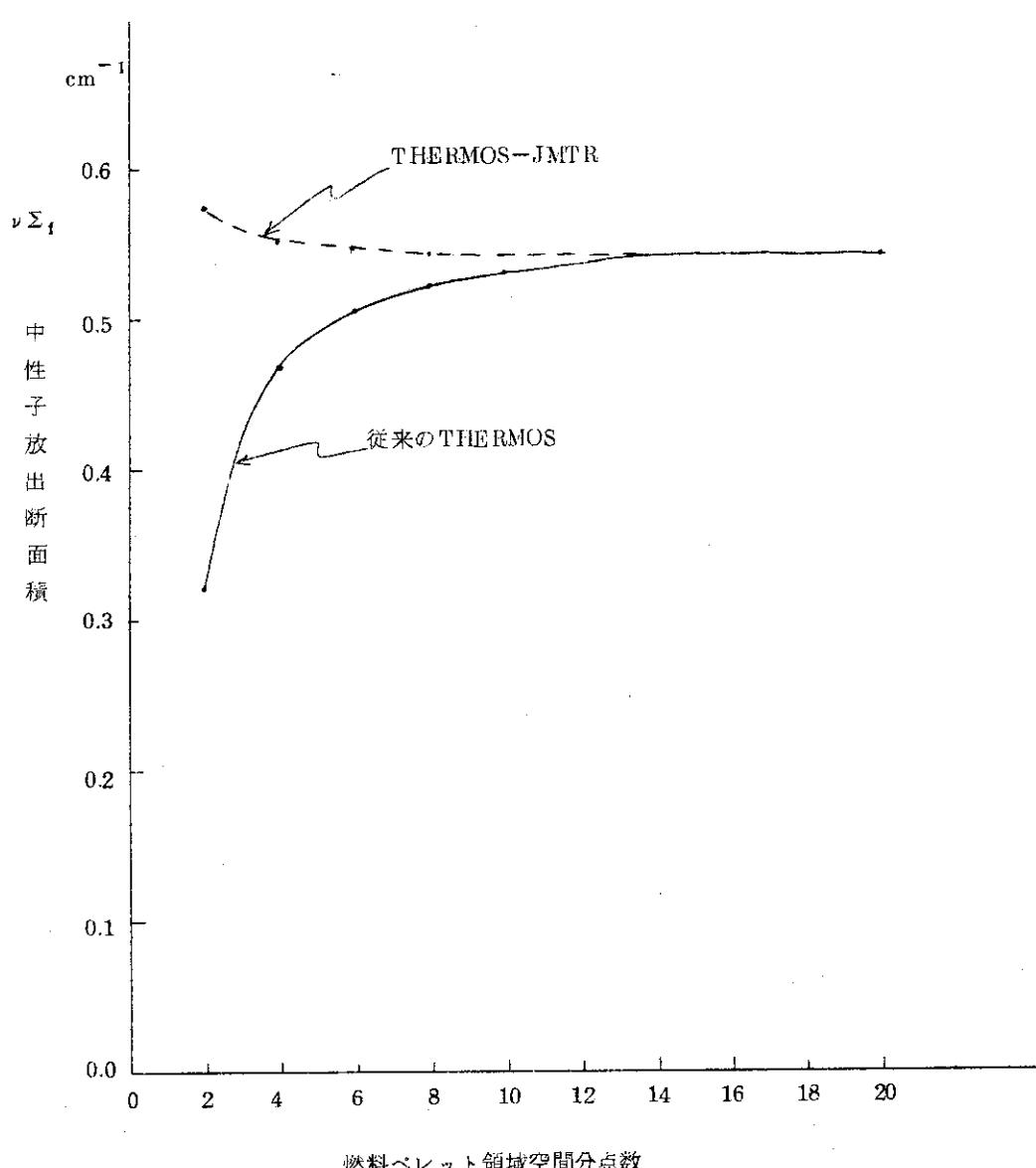


図 2-6 プログラム改良前後の比較

3. 燃料集合体の熱群定数計算のための出力形式変更

J M T Rには形状の複雑な照射試料が装荷される場合があり、熱群のセル定数を作成するのに不都合を生じる場合がある。例えば図3-1の様な試料であるが、J M T Rで使用している

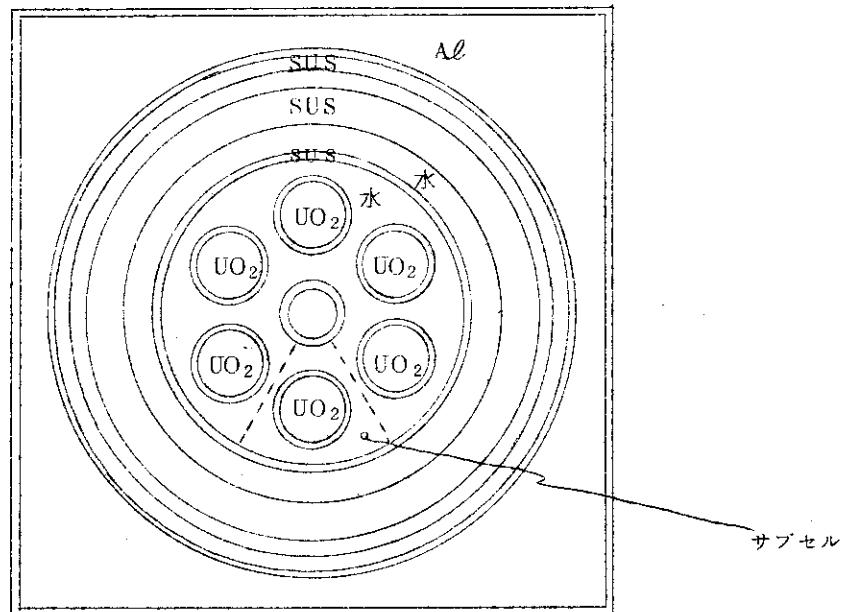


図3-1 OWL-1

方法はTHERMOS計算を複数回行うものであり、次のステップでセル定数を求める。

1. サブセルについてTHERMOSを用いて計算する。この場合セル境界は円形で、 D_{ia} Pを用いて中性子は乱反射するとする。
2. ステップ1の結果から、サブセルを代表するMIXTUREを作成し、セル全体の計算をTHERMOSで行う。

この問題は、サブセルを代表するMIXTUREの作り方である。従来は中性子束×体積を重みとして各核種の個数密度を計算し1つのMIXTUREとしていた。しかし、サブセル部分のスペクトルがステップ1とステップ2で著しく異なるケースがしばしばあった。この不都合を解消するため従来の方法を幾分修正した。すなわち、サブセルの性質を代表する仮想的物質を考え、THERMOS計算(全セル)に必要な諸量をTHERMOS計算(サブセル)から得られる様にした。THERMOSに必要なインプットデータは、1) 散乱核、2) 吸収断面積、3) μ 、4) ν であり次の様に求めた。

1) 散乱核

$$P_{SUB}(I, J, k) = \frac{\sum_{SUB\text{-セル}} P(I, J, k) \cdot N(J, k) \cdot Vol(k)}{\sum_{SUB\text{-セル}} N(J, k) \cdot Vol(k)}$$

2) 吸収断面積

$$\Sigma_{SUB\text{-セル}} SIGA(I, k) \cdot N(I, k) \cdot V(I) \cdot Vol(k)$$

$$SIGA_{SUB}(I, k) = \frac{\sum_{SUB\text{-セル}} N(I, k) \cdot V(I) \cdot Vol(k)}{Vol(I)}$$

3) μ

$$\mu_{\text{SUB}}(I) = \frac{\sum_{\text{SUBセル}} \sum_J \text{SIGS}^J(I, K) \cdot N(I, K) \cdot V(I) \cdot \text{Vol}(K) \cdot \mu^J(I)}{\sum_{\text{SUBセル}} \sum_J \text{SIGS}^J(I, K) \cdot N(I, K) \cdot V(I) \cdot \text{Vol}(K)}$$

J : 核種ナンバー

4) ν

$$\nu_{\text{SUB}}(I) = \frac{\sum_{\text{SUBセル}} \sum_J \text{SIGF}^J(I, K) \cdot N(I, K) \cdot V(I) \cdot \text{Vol}(K) \cdot \nu^J(I)}{\sum_{\text{SUBセル}} \sum_J \text{SIGF}^J(I, K) \cdot N(I, K) \cdot V(I) \cdot \text{Vol}(K)}$$

なお、この方法を用いる事によって、SUS, NaK 等キャップセルの構成物質として良く用いられる合金を一つの核種として取り扱う事も可能であり、毎サイクルのキャップセル定数作成の作業を簡単化する事ができる。

上述の計算を行うプログラムは、ANL-THERMOSには同様なものがサブルーチンとしてついていたようであるが、我々の入手した THERMOS についてはついていなかったため、サブルーチン PIJCON の中に新たにプログラムを追加した。

4. 計算結果のプロッタによる図示

プロッタで中性子密度を描かせるのはオプションになっており、後述のインプット形式で示す様にカード番号 2 6 で指示する事ができる。プロッタが使えるのは、円筒形状の体系について計算した場合のみである。縦軸は中性子密度であり体系の中心が 1.0 になる様に規格化してある。横軸は中心からの距離であり実寸の 5 倍に拡大される。グラフの上にはインプットで与えられたタイトルが書かれる。また領域と領域の境には縦線が引かれる事になっている。このグラフを見る事によって、体系の寸法、SOURCE 分布の入れ方、各 MIXTURE の核種個数密度にミスインプットがない事などがチェックできる。

図 4-1 にプロッタで書かせた一例を示す(1/3 に縮小して示した)。

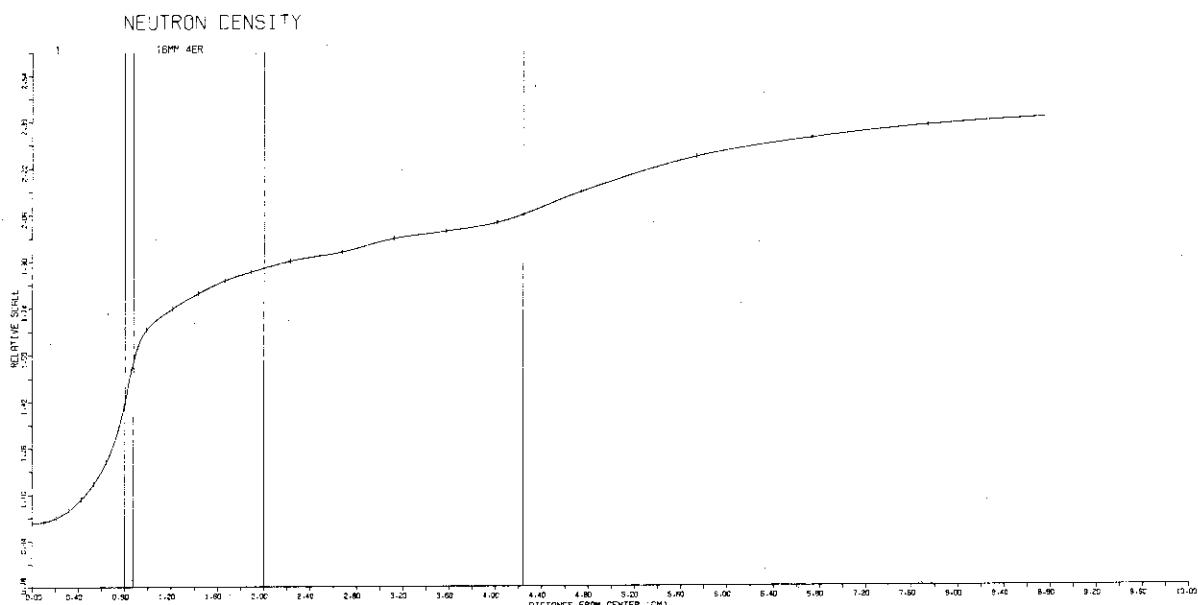


図 4-1 プロッタ出力

5. 入力形式

THERMOS-MUGとほぼ同じであるが多少OPTIONがつけ加えられている。

カード番号	書式	記号	内容	備考
1	72H		タイトルカード、コラム1VC1を記入	
2	216	IDENT IBY	PROBLEM番号 =0 通常の計算 >0 前ケースのMIXTUREを使い体系各部の寸法のみを変える。 <0 前ケースのEDITのみをパラメータを変えて再計算する。	
3	616	NX IX MX 1SOX 1SOXE ICX	空間メッシュ点数 ≤ 25 エネルギー群数 ≤ 30 MIXTURE数 ≤ 8 CELLを構成する核種でLIBRARYから引き出すものの数 ≤ 25 EDITで使用しLIBRARYから引き出すものの数 ≤ 25 CELLを構成する核種でCARDによりINPUTするものの数 $\leq 25 - 1SOX$	
4	2511	MTBL(N), N=1, NX	各メッシュ点に対応するMIXTUR番号。	
5	I5 I3 8E9.4	1STBA(J) 1STBB(J) CONCTA(J,M) M=1, MX J=1, 1SOX	CELLを構成するJ番目の核種の第1呼出し番号。 CELLを構成するJ番目の核種の第2呼出し番号(温度)。 M番目のMIXTUREで使われるJ番目の核種の濃度($\times 10^{24}$ ケ/cm ³)	
6	6E12.5	V(I) I=1, IX	エネルギー メッシュ点を小さい方から入れる。ただし中性子速度(v_i)でINPUTする。	1SOX+1SOXE $\neq 0$ の時はいらない。
7	6E12.5	DV(I) I=1, IX	中性子速度巾	

カード番号	書式	記号	内容	備考
8	I 5 I 3 8 E 9.4	ISTBA(LP) ISTBB(LP) CONCTA(LP, M) M=1, MX LP=1, ICX	CARD から INPUTし CELL を構成する LP 番目の核種の第 1 呼出し番号。 CARD から INPUTし CELL を構成する LP 番目の核種の第 2 呼出し番号。 M 番目の MIXTURE で使われる LP 番目に CARD から INPUTされる核種の濃度。	8~13 のカードは ICX=0 の時はいらない。
9	5 1 6	NXAT NKERT IDNU IDAFA IDMU E 1 2.5	= 0 σ_a^{LP} を表で与える。 ≈ 0 $\sigma_{a_i}^{LP} = \sigma_{a_0}^{LP} / v_i$ < 0 散乱核を読まない。 ≥ 0 散乱核をカードから読む。 = 0 v を表で与える。 > 0 v は一定値を使う。 < 0 v は読み込まない。 = 0 σ_f^{LP} を表で与える。 > 0 $\sigma_{f_i}^{LP} = \sigma_{f_0}^{LP} / v_i$ < 0 σ_f^{LP} は読み込まない。 = 0 μ^{LP} を表で与える。 ≈ 0 μ^{LP} は一定値を使う。 TP 使用していない。適当な実数。	
10	6 E 1 2.5	VALXA(I) I=1, IX	$\sigma_{a_i}^{LP}$ ($N \times AT = 0$) $\sigma_{a_0}^{LP}$ ($N \times AT \neq 0$)	
11	6 E 1 2.5	XNU(I) I=1, IX	v_i ($IDNU = 0$) v_o ($IDNU > 0$)	
12	6 E 1 2.5	FX(I) I=1, IX	$\sigma_{f_i}^{LP}$ ($IDAFA = 0$) $\sigma_{f_0}^{LP}$ ($IDAFA > 0$)	
13	6 E 1 2.5	XMU(I) I=1, IX	μ_i^{LP} ($IDMU = 0$) μ_o^{LP} ($IDMU \neq 0$)	
14	6 E 1 2.5	PP(I, J) I=1, IX, J=1, IX	散乱核	
15	2 1 6	N S C N S T	カード番号 17 で与えるソースの数 ≤ 0 ソースは空間的に flat. > 0 ソースは空間分布を持つ。	

カード番号	書式	記号	内容	備考
16	6 E 12.5	SD(N) N=1, NX	ソース分布、各空間点に対応する値(相対値)を記入する。	SNT<0の時は いらない。
17	I 6 4 E 12.5	M AM HXE HCON TP	ソースが存在するMIXTURE番号 ソース核種の質量 ソース核種のEPI THERMALにおける散乱断面積 ソース核種濃度 PROTONの実効温度 (水素以外の時はTP=0.0)	
18	3 I 6	LTST NRX NGEOM	<0 真空境界を持つ円筒, FULLSLAB =0 対称軸と真空境界を持つHALF SLAB, 真空境界を持つ円筒 >0 反射境界を持つSLAB, 円筒 領域の数 ≤ 0 円筒 >0 SLAB	
19	2 I 6 E 12.5	NRXA NP TH	領域番号 この領域に含まれる空間メッシュ点数。 この領域の巾(cm)	
20	5 E 10.5 4 I 5	EPS RELC EP SG OVERX FACTOR IT BG LC MX IT DM IT MAX I P T	中性子密度の収束判定値 ϵ_r ($= 10^{-5}$) 初期OVERRELAXATION FACTOR ω_0 ($= 1.2$) 外挿判定値 ϵ_e ($= 0.05$) 最大外挿係数 ($= 100$) UNDER EXTRAPOLATION FACTOR ($= 1.0$) 最初の外挿前の最小繰返し計算数 ℓ_b ($= 5$) OVERRELAXATION FACTORを計算する。 外挿後の次の外挿までの最小繰返し計算数 ℓ_d ($= 5$) 最大繰返し計算数 ($= 100$) >0 繰返し計算毎に残差等をプリントする。 ≤ 0 プリントしない。 ($= 0$)	ブランクカードにすれば()内の値がInputされた事になる。

カード番号	書式	記号	内容	備考
21	E6.2	GOKIN	=0 仮想核種の散乱核をカードで出力する。 =0 出力しない。	
22	1415	IXPCM IXPTL(J) IXPTU(J) J = 1, IXPCM	EDIT するエネルギー組数 J番目のエネルギー組の最小エネルギー群 J番目のエネルギー組の最大エネルギー群	
23	216	NRI NRF	平均中性子束を計算する最小領域 " " 大 "	
24	16	NOPX	=1 核種毎に EDIT する。 =1 核種毎に EDIT しない。	
25	6011	NRTBL(N) N=1, NX	EDIT 領域の指定。連続して同じ整数を Inputした場合その空間メッシュ点の全部が一つの EDIT 領域となる。	
26	316	NCR NCRXE 111	=1 PIJCONのルーチンを行う。 =1 " を行わない。 =1 TACKLEのルーチンを行う。 =1 " を行わない。 =1 計算結果(中性子密度分布)をプロッタで書かせる。 =1 プロッタで書かない。	

6. 変更後のプログラムリスト

```

FORTRAN D -730801- (V-05,L-01)          COMPILETIME 75.01.21          FORTRAN D -730801- (V-05,L-01)          COMPILETIME 75.01.21
PROGRAM MAIN          COMMON /ANL1/ FC25,25,30)
COMMON /ANL2/ DELTA,1CK
COMMON /ANL3/ AT(10),MT(10),AKT(10)
COMMON /ANL4/ T(118)
COMMON/B16/F(125,30)
COMMON/B16/F(125,30) H(25,30),R(25,30),VOL(25),RAD(25),DV(30),V(30)MAIN 005
11,MTBL(15,25,30),XNM(25,30),NRTBL(25),1STMAIN 006
2R(25),1STBE(25,15),G(25),CONC(25,8),CONCITE(25),XAT(25,30),XST(25,30)
35,30),S(25,30),IX,NX,LYPCH,1SOX,LEAK,INPAGE,IDENT,MX,IBY,1TCMA IN 008
4NT,RENORM,PSA,ROLD,REWIND,INTOUT,NTLIB,NRPUN,INTERP,FVSTR,NRA,XNM IN 009
5U(30),XNUFT(25,30),FX(30),XF(25,30),XMU(30),XMUFT(25,30),XA(30),MAIN 010
6,1CAE,P(30,10,8)
COMMON/YOBIN/ PEPE(30,30)
100 READ (5,110) (TIT(1),1=1,19)
NTLIB=1
NTEP=2
REWIND NTTEMP
WRITE(C,110) (TIT(1),1=1,18)
110 FORMAT(1A4)
120 FORMAT(1I6)
120 FORMAT(1I6)
120 READ (5,120) IDENTA,IBY
98 IF (IDENTA) 121,121,123
121 STOP
123 IF (IBY1122,101,122)
122 WRITE(6,125) IDENT,A,IDENT
125 FORMAT(6H0)IDENT16,15H SAME XSECT AS16)
IDENT=IDENTA
1FC(IHY156,156,126
128 DO 129 I=1,1,18750
129 T(1,1,1)=0.0
GO TO 800
101 DO 111 I=1,1,6828
111 F(1,1)=0.0
DO 112 I=1,1,18750
112 T(1,1,1)=0.0
127 IDENT=IDENTA
CALL XPREP
1010 CALL CARDN
1160 CALL MERGE
860 READ (5,120) LEAKT,NRX,NGFOM
IF (NGFOM) 882,882,883
882 CALL GEOR
GO TO 846
883 CALL GECKX
884 CALL ITER
CALL EDIT1
IF (ICKE) 56,256,300
300 CONTINUE
256 CALL EDREP
156 CALL EDIT3
READ (5,1000) NCR,NERKE,111
2000 FORMAT(3I16)
IF (NCR,NE,1) GO TO 1500
CALL PLJDN
1500 IF (NERKE,10,1) CALL TACKLE
IF (111,NE,1) CALL NAGAO
30 TO 100
END

```

```

          COMMON /ANL2/ DELTA,1CK
          SUBROUTINE XSTOP (K)
          WRITE(6,11) K
          1 FOR,AT(1)H PROGRAM ERROR STOP16)
          RETURN
          END

          SUBROUTINE XPREP
          COMMON /ANL1/ T(25,25,30)
          COMMON /ANL3/ AT(10),AMT(10),AKT(10)
          COMMON /ANL4/ T(27),G(27),R(27),LW,KZ
          COMMON/B16/F(25,30),XNM(25,30),NRTBL(25),1STMAIN 005
11,MTBL(25,30),XNM(25,30),NRTBL(25),1STMAIN 006
2R(25),1STBE(25,15),G(25),CONC(25,8),CONCITE(25),XAT(25,30),XST(25,30)
35,30),S(25,30),IX,NX,LYPCH,1SOX,LEAK,INPAGE,IDENT,MX,IBY,1TCMA IN 008
4NT,RENORM,PSA,ROLD,REWIND,INTLIB,NRPUN,INTERP,FVSTR,NRA,XNM IN 009
5U(30),XNUFT(25,30),FX(30),XF(25,30),XMU(30),XMUFT(25,30),XA(30),MAIN 010
6,1CAE,P(30,10,8)
COMMON/YOBIN/ PEPE(30,30)
100 READ (5,110) (TIT(1),1=1,19)
NTLIB=1
NTEP=2
REWIND NTTEMP
WRITE(C,110) (TIT(1),1=1,18)
110 FORMAT(1A4)
120 FORMAT(1I6)
120 FORMAT(1I6)
120 READ (5,120) IDENTA,IBY
98 IF (IDENTA) 121,121,123
121 STOP
123 IF (IBY1122,101,122)
122 WRITE(6,125) IDENT,A,IDENT
125 FORMAT(6H0)IDENT16,15H SAME XSECT AS16)
IDENT=IDENTA
1FC(IHY156,156,126
128 DO 129 I=1,1,18750
129 T(1,1,1)=0.0
GO TO 800
101 DO 111 I=1,1,6828
111 F(1,1)=0.0
DO 112 I=1,1,18750
112 T(1,1,1)=0.0
127 IDENT=IDENTA
CALL XPREP
1010 CALL CARDN
1160 CALL MERGE
860 READ (5,120) LEAKT,NRX,NGFOM
IF (NGFOM) 882,882,883
882 CALL GEOR
GO TO 846
883 CALL GECKX
884 CALL ITER
CALL EDIT1
IF (ICKE) 56,256,300
300 CONTINUE
256 CALL EDREP
156 CALL EDIT3
READ (5,1000) NCR,NERKE,111
2000 FORMAT(3I16)
IF (NCR,NE,1) GO TO 1500
CALL PLJDN
1500 IF (NERKE,10,1) CALL TACKLE
IF (111,NE,1) CALL NAGAO
30 TO 100
END

```

```

          COMMON /ANL2/ DELTA,1CK
          SUBROUTINE XSTOP (K)
          WRITE(6,11) K
          1 FOR,AT(1)H PROGRAM ERROR STOP16)
          RETURN
          END

          SUBROUTINE XPREP
          COMMON /ANL1/ T(25,25,30)
          COMMON /ANL3/ AT(10),AMT(10),AKT(10)
          COMMON /ANL4/ T(27),G(27),R(27),LW,KZ
          COMMON/B16/F(25,30),XNM(25,30),NRTBL(25),1STMAIN 005
11,MTBL(25,30),XNM(25,30),NRTBL(25),1STMAIN 006
2R(25),1STBE(25,15),G(25),CONC(25,8),CONCITE(25),XAT(25,30),XST(25,30)
35,30),S(25,30),IX,NX,LYPCH,1SOX,LEAK,INPAGE,IDENT,MX,IBY,1TCMA IN 008
4NT,RENORM,PSA,ROLD,REWIND,INTLIB,NRPUN,INTERP,FVSTR,NRA,XNM IN 009
5U(30),XNUFT(25,30),FX(30),XF(25,30),XMU(30),XMUFT(25,30),XA(30),MAIN 010
6,1CAE,P(30,10,8)
COMMON/YOBIN/ PEPE(30,30)
100 READ (5,110) (TIT(1),1=1,19)
NTLIB=1
NTEP=2
REWIND NTTEMP
WRITE(C,110) (TIT(1),1=1,18)
110 FORMAT(1A4)
120 FORMAT(1I6)
120 FORMAT(1I6)
120 READ (5,120) IDENTA,IBY
98 IF (IDENTA) 121,121,123
121 STOP
123 IF (IBY1122,101,122)
122 WRITE(6,125) IDENT,A,IDENT
125 FORMAT(6H0)IDENT16,15H SAME XSECT AS16)
IDENT=IDENTA
1FC(IHY156,156,126
128 DO 129 I=1,1,18750
129 T(1,1,1)=0.0
GO TO 800
101 DO 111 I=1,1,6828
111 F(1,1)=0.0
DO 112 I=1,1,18750
112 T(1,1,1)=0.0
127 IDENT=IDENTA
CALL XPREP
1010 CALL CARDN
1160 CALL MERGE
860 READ (5,120) LEAKT,NRX,NGFOM
IF (NGFOM) 882,882,883
882 CALL GEOR
GO TO 846
883 CALL GECKX
884 CALL ITER
CALL EDIT1
IF (ICKE) 56,256,300
300 CONTINUE
256 CALL EDREP
156 CALL EDIT3
READ (5,1000) NCR,NERKE,111
2000 FORMAT(3I16)
IF (NCR,NE,1) GO TO 1500
CALL PLJDN
1500 IF (NERKE,10,1) CALL TACKLE
IF (111,NE,1) CALL NAGAO
30 TO 100
END

```

FORTRAN D - 730801- (V-05,L-01)

COMPILATION 75.01.21 FORTAN D - 730801- (V-05,L-01) COMPILATION 75.01.21

```

100 ISOC=0
300 READ (NTLIB) IDM, IDMA, IDR, IDA
D320=N1,ISOX
L=J
110 IF (ISTBA(J)=IDM) 320,310,320
320 CONTINUE
120 IF (C1DB)=IDMA) 320,380,320
130 CALL XSTOP((101)
STOP
360 L=IDA+4
DO370=L,1,L
370 READ (NTLIB)
GOTO390
380 ISOC=ISOC+1
HEAD (NTLIB) XA
D390=1,1,X
390 XAT(L,1)X
IF (IDA)>0,400,400
400 HEAD (NTLIB) PP
DO420=1,1,X
DO410=1,1,X
410 XST(L,J,XST(L,J)+PP(1,J)*DV(1)
XST(L,J,XST(L,J)+(V(J),DV(J))
420 DO450=1,1,X
IF (CONCT(L,M)) 430,450,430
430 DO440=1,1,X
DO441=1,1,X
P1,J,M)=PP(1,J,M)*CONCT(L,M)*PP(1,J)/V(1)
440 P1,J,M)=PP(1,J,M)*CONCT(L,M)*PP(1,J)/V(1)
450 CONTINUE
IF (IDA-1)>0,480,460
460 N=IDA-1
465 DO 470 J=1,N
470 READ (NTLIB) XNU
480 READ (NTLIB) FX
READ (NTLIB) XMU
DO 485 J=1,N
XNU(J),J=XNU(J)
NFT(J,J)=FX(J)
485 XNU(J)=XNU(J)
486 IF (ISOC-150)>300,490,490
490 REMIND NTLIB
1000 CONTINUE
RETURN
END

```

SUBROUTINE CARDIN
DIMENSION PP(40,40),WK(25),SD(25),SP(30)

```

COMMON /ANL1/ T(25,21,30)
COMMON /ANL2/ DELT,J,1,X
COMMON /ANL3/ T(10),AMT(10),AKT(10)
COMMON/B161/ (25,30),H(25,30),R(25,30),VOL(25),RAD(25),DV(30),V3DOMAIN 005
12,MMTRL(25),G(25,30),XTM(25,30),RAM(25,30),WRTBL(25),ISTBMAIN 006
XST2MAIN 007
28(25),ISTBE(25),15TB6(25),CONCT(25,8),CONTE(25,8),XAT(25,30)
35,30),S(2,30),1,XNU,1,XPCP,1,SOX,1,SOE,1,LEA,1,IDE,1,HA,1,B
4,1,REFORM,EP5,ROL,D,NEW,INT,N,NDOUT,NTLIB,NIPUR,INTEMP,IVFSTR,NRX,XNUFT(25,30)
SU(30),XNUFT(25,30),FX(30),XFT(25,30),XNU(30),MAIN 010
6,ICKE,P(30,30,8)
IF ((ICA)1160,1160,1010

```

MERGE002

```

1046 FORMAT (3HMF/16F1.5)
1047 FORMAT (6HONUBAR/(6E1.5))
1050 IF (NKENT,LE,0) GO TO 1080
READ(5,20000) (PP(1,J),J=1,1,X)
2000 FORMAT (6E12.5)
107 DO 1070 M=1,MX
IF ((CONCT(L,P),M)) 1060,1070,1060
1060 DO 1065 J=1,1,X
MAIN 010
1065 P(1,J,M)=PP(1,J)/V(1)
1070 CONTINUE

```

CRDNPO14
CRDNPO15
CRDNPO17
CRDNPO18
CRDNPO19
CRDNPO20
CRDNPO21
CRDNPO22
CRDNPO23
CRDNPO24
CRDNPO25
CRDNPO26
CRDNPO27
CRDNPO28
CRDNPO29
CRDNPO30
CRDNPO31
CRDNPO32
CRDNPO33
CRDNPO34
CRDNPO35
CRDNPO36
CRDNPO37
CRDNPO38
CRDNPO39
CRDNPO40
CRDNPO41
CRDNPO42
CRDNPO43
CRDNPO44
CRDNPO45
CRDNPO46
CRDNPO47
CRDNPO48
CRDNPO49
CRDNPO50
CRDNPO51
CRDNPO52
CRDNPO53
CRDNPO54
CRDNPO55
CRDNPO56
CRDNPO57
CRDNPO58
CRDNPO59
CRDNPO60
CRDNPO61
CRDNPO62
CRDNPO63
CRDNPO64
CRDNPO65
CRDNPO66

CRDNPO72
CRDNPO73
CRDNPO74
CRDNPO75
CRDNPO77

```

FORTRAN D - 730801- (V=05,L=01)          COMPILATION 75.01.21          FORTRAN D - 730801- (V=05,L=01)          COMPILATION 75.01.21
DO 1077 J=1,IX
DO 1078 I=1,IX
1078 XST(LP,J)=GST(LP,J)+PP(I,J)*DV(I)
1077 XST(LP,J)=XST(LP,J)/(V(J)*NVC(J))
      WRITE(6,1077)(XST(LP,I),I=1,19)
1075 FORMAT(1H0X*(6E12.5))
1080 CONTINUE
1160 CONTINUE
140 FORMAT(6E12.5)
180 FORMAT(15.13,8E9.4)
      RETURN
END

SUBROUTINE MERGE
COMMON /AL1/L,T25,25,10)
COMMON /AL2/VELT,J,CX
COMMON /AL3/A,T(10),AMT(10)
COMMON /BL1/G1/F(25,30),H(25,30),IR(25,30),VOL(25),RAD(25),DV(30),VN0MAIN 005
1J,MTRB(25),@(25,30),XTM(25,30),XAM(25,30),NRTBL(25),ISTB((25),XST((25),XAM(25,30))006
35,30),ISRA(25),LISBG(25),CONCT(25,8),CONCT(25,30),XAM(25,30),XST((25,30),XAM(25,30))007
35,30),XNFT(25,30),X_NA,1PCHM150D,ISXK,LEANT,NPAGE,IDENT,MX,IBY,ITCHAN 008
35,30),XNFT(25,30),FX(25,30),XFT(25,30),XNUF(25,30),XNUF(25,30),XAM(30),XA(30),MAIN 010
6)CAE P(30,30,8)
DIMENSION FP(40,40),WK(25),SD(25),SP(30)
EQUivalence (PP,T)
1160 1SOX=1.150X
      DO600=M-1,150X
1F (CONCT((J,M))>560,600,560
560  DO590=N-1,NX
      M=MTL(K)
1F CIP-M>590,570,590
      CONTINUE
DO605=1,1X
      XTM(N,1)*XTM(N,1)+CONCT((J,M))*XST(J,1)
560  XTM(N,1)*XAM(N,1)+CONCT((J,M))*XST(J,1)
      CONTINUE
DO605=1,1X
      XTM(N,1)*XAM(N,1)+XAM(N,1)
605  NPAGE=NPAge+1
      WRITE(6,1010) IDENT,NPAGE
2010 FORMAT(1H1THERMOS CASE NO.15,6H PAGE13)
      WRITE(6,2020)
2020 FOR:101HO ISOTOPE CONC MIX 1 CONC MIX 2 CONC MIX 3 CONC
      1MIX 4 CONC MIX 5 CONC MIX 6 CONC MIX 7 CONC MIX 8
      WRITE(6,1030)
2030 FORMAT(108H-----)
      WRITE(6,1040)
2040 FORMAT(13H USED IN CELL)
      WRITE(6,1050)(ISTBA(I),I=1,M),M=1,8,I=1,150X)
      WRITE(6,1050) (ISTBA(I),I=1,M),M=1,8,I=1,150X)
2050 FORMAT(16.1H-15.8E12.5)
      WRITE(6,2002,(N,1,NX)
2080 FORMAT(1H0REGION NO 2513)
      WRITE(6,2090) (MFBL(N),N=1,NX)
2090 FORMAT(1H1 1XTUPE NO2513)
      WRITE(6,610)
610  FORMAT(12H SOURCE DATA)

700 READ(5,120) NSCANST
      WRTTF(6,705) NSC
705 FORMAT(1H0NO. OF CARDS=15)
      IF(CNST)710,710,730
710 DO120=N-1,NX
      SD(N)=1,
CRDNP081 720  GOT070
CRDNP082 730  READ(6,141) (SD(N),N=1,NX)
CRDNP083 740  EM=(V(X)-0.5*D(V(X)))*2
      EM=(V(X)-0.5*D(V(X)))*2
      WRITE(6,742) (SD(N)-0.5*D(V(X)))*2
      WRITE(6,743) FORMAT(1H0SOURCE CONSTANTS)
      DOBONS=1,NSC
      RFD(5,870) MAMHXS,HCON,TP
      WRTF(6,755) MAMHXS,HCON,TP
745  FORMAT(4H MIX 2.8H MASS= E12.5,6H CON= E12.5,7H
      1,6H TP= E12.5)
      ALPH=(CAM-1,7)/(AM+1,7)**2
      SP(1)=1,X
      DO150=1,1X
      SP(1)=C
      IF(FMA-ALPH*EN)760,760,770
      SP(1)=HCON+HXS/(D(V(X))*AM+0.667)
      GOTO820
750  SP(1)=1,X
      A=(C1)*(1./EM-ALPH/(V(C1)*V(1)))
      GOTO790,790,780
      A=(C1)*(1./EM-ALPH/(V(C1)*V(1)))
      IF(A)<0,790,780,780
      SP(1)=C0H+HXS/A/C1,-ALPH)
      MERGE013
      MERGE014
      SP(1)=C0H+HXS/A/C1,-ALPH)
      MERGE015
      790  CONTINUE
      MERGE016
      MERGE017
      MERGE018
      MERGE019
      MERGE020
      MERGE021
      A=(C1)*(1./EM-ALPH/(V(C1)*V(1)))
      GOTO910
      MERGE022
      MERGE023
      MERGE024
      MERGE025
      MERGE026
      MERGE027
      MERGE028
      MERGE029
      MERGE030
      MERGE031
      MERGE032
      A70  CONTINUE
      R70  FORMAT(16,4E12.5)
      120  FORMAT(216)
      141  FORMAT(6E12.5)
      HETURN
      END

1-----)
MERGE038
MERGE039
SUBROUTINE GEOMR
COMMON /AN1/T(25,25,30)
COMMON /AN1/DETAJ,ICK
COMMON /AN1/AT(10),AKT(10)
COMMON /AN1/Y(27),GA(27),LMA,K2
COMMON /AN1/RW(50)
COMMON /BIG1/F(25*30),H(25*30),R(25*30),V(30MAIN 005
1,J+MTBL(25),@(25*30),XTM(25*30),XAM(25*30),NRTBL(25),ISTB((25),XAM(25*30))006
SP(1)=C
IF(FMA-ALPH*EN)760,760,770
SP(1)=HCON+HXS/(D(V(X))*AM+0.667)
GOTO820
750  SP(1)=1,X
A=(C1)*(1./EM-ALPH/(V(C1)*V(1)))
GOTO790,790,780
A=(C1)*(1./EM-ALPH/(V(C1)*V(1)))
IF(A)<0,790,780,780
SP(1)=C0H+HXS/A/C1,-ALPH)
MERGE013
MERGE014
SP(1)=C0H+HXS/A/C1,-ALPH)
MERGE015
790  CONTINUE
MERGE016
MERGE017
MERGE018
MERGE019
MERGE020
MERGE021
A=(C1)*(1./EM-ALPH/(V(C1)*V(1)))
GOTO910
MERGE022
MERGE023
MERGE024
MERGE025
MERGE026
MERGE027
MERGE028
MERGE029
MERGE030
MERGE031
MERGE032
A70  CONTINUE
R70  FORMAT(16,4E12.5)
120  FORMAT(216)
141  FORMAT(6E12.5)
HETURN
END

1-----)
MERGE038
MERGE039
SUBROUTINE GEOMR
COMMON /AN1/T(25,25,30)
COMMON /AN1/DETAJ,ICK
COMMON /AN1/AT(10),AKT(10)
COMMON /AN1/Y(27),GA(27),LMA,K2
COMMON /AN1/RW(50)
COMMON /BIG1/F(25*30),H(25*30),R(25*30),V(30MAIN 005
1,J+MTBL(25),@(25*30),XTM(25*30),XAM(25*30),NRTBL(25),ISTB(25),1ST8MAIN 006

```



```

FORTAN D -730801- (V-05,L-01)          COMPILATION 75,01,21          COMPILATION 75,01,21
26 NMIN=NX
DX(N)=10.0
60 TO 650
25 DX(I)=0,
GOTO500
530 R=SPRT (R0(N))*RO(N)-PCAS
DX(N)=B-A
AB
600 CONTINUE
L0=L
IF((I-2),1,13,13
12 IF((I-2),2,15,14
14 IF(L-2),3,16
16 IF((L-12),6,5,7
15 IF((L-2),4,17
17 IF((L-12),1,11
13 IF((I-2),8,20,19
18 IF(L-2),1,21
21 IF((L-12),16,5,1
19 IF((I-2),2,2,22
22 IF((I-12),8,5,23
23 IF((R(I,K)-RCIA9,9,10
20 IF((L-2),1,24,
24 IF((L-12),1,1,23
1 RH02=0.0
GO TO639
2 RH02=R0(K)-RN0(K)
3 RH02=0.0
4 RH02=2.*R0(K)
5 GO TO 639
5 RH02=D(X)
GO TO 639
6 RH02=SQR((R0(K)**2-RCAS)+SQR(RN0(K)**2-RCAS)
GO TO 639
7 RH02=SQR((R0(K)**2-RCAS)+SQR(RN0(K)**2-RCAS)
GO TO 33
8 RH02=SQR((R0(K)**2-RCAS)-SQR(RN0(K)**2-RCAS)
GO TO 639
9 RH02=SQR((RN0(K)**2-RCAS)
GO TO 639
10 RH02=SQR((RN0(K)**2-RCAS)-SQR((R1(K)**2-RCAS)
GO TO 639
11 RH02=2.*SQR((R0(K)**2-RCAS))
639 D0760=1.1*X
D062NM=NMIN,NX
DL(NM=XTMP(N,I))*DX(N)
XRHC2*X19(K,I)
636 LP1=X/DI
IF(LP>300)638,638,637
637 CA=0
638 CA=FA(LP2+X*FNBL(P)
IF(K1,-CA,E-)602,602,604
639 T(K,Y,I)=T(K,K,I)+1,570763*RH02
640 IF(K-NM)=650,680,680
650 NM+1
6C7030
640 IF(K-NM)690,690,670
670 G01Q730
680 NM=N
690 GOTO72,0
695 NM=M/N
700 G010700
701 X*=DI(N)
702 IF(Y=-5,)705,705,702
703 TN(K,I)*TR(K,I)+CA/XTM(N,I)
705 LP1=X/DH
CB*FNAL(P)+X*FNBL(P)
IF((CA-CB-1,E-0)703,703,706
706 TN(K,I)*TN(K,I)+(CA-CB)/XTM(N,I)
707 CACB
708 GO TO 704
709 X*X-DI(N)
710 TN(K,I)*TR(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP))*DX(N)
711 JNTR
712 G010760
713 X*DL(N)
714 TN(K,I)*TN(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP)
715 JNTR
716 TN(K,I)*TN(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP)
717 JNTR
718 G010760
719 NM+1
720 G010700
721 IF(LEFTY730,730,760
722 X*X+DL(N)
723 IF(X-5,)735,735,732
724 TN(K,I)=TN(K,I)+CA/XTM(N,I)
725 G010760
726 JNTR
727 C*FNAL(P)+X*FNBL(P)
IF(CA-CB-1,E-6)736,736,738
728 TN(K,I)*TR(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP)
729 JNTR
730 TN(K,I)=TR(K,I)+(CA-CB)/XTM(N,I)
731 CACB
732 GO TO 737
733 JNTR
734 X*D1/DH
C*FNAL(P)+X*FNBL(P)
735 JNTR
736 TN(K,I)*TR(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP)
737 TN(K,I)*TN(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP)
738 JNTR
739 G010760
740 NM+1
741 G010730
742 X*X-DL(N)
743 JNTR
744 CONTINUE
745 DO L=27790,7770,790
746 D080N=1,*X
747 TN(K,I)*TR(K,I)+CNA1(LP)*X1*FN01(LP)
748 CACB
749 TN(K,I)=0.5*(N,K,I)
750 JNTR
751 DO 52 J=1,IX
752 DO 53 K=1,NX
753 TN(K,I)=TR(K,I)
754 CONTINUE
755 GEOMR133 800
756 GEOMR134 (IF(J-5)>1,55,802
757 GEOMR135 51 DO 52 J=1,IX
758 GEOMR136 DO 53 K=1,NX
759 GEOMR137 730 CONTINUE
760 GEOMR138 53 CONTINUE
761 GEOMR139 800
762 DO 54 K=2,NX
763 K*K-1
764 DO 54 N=NK,NX
765 TN(K,I)*TR(K,I)
766 GEOMR140 54 CONTINUE
767 GEOMR141 54
768 GEOMR142 54
769 GEOMR143 54
770 GEOMR144 54
771 GEOMR145 52 CONTINUE

```

```

FORTRAN D -7308001- (V=05.L=01)          COMPILATION 75.01.21          FORTRAN D -7308001- (V=05.L=01)          COMPILATION 75.01.21
      GO TO 802          IX
 55 DO 59 I=1,IX
    T1=NK,NK,J=M(NK,NK,J)
 59 CONTINUE
 802 CONTINUE
      NK=MNK-1
      DO 56 K=1,NKO
        DELT=ROCK-RNCK
        AELT=ROCK+RICK
        DO 56 N=0,NX
          DO 56 I=1,IX
            IF (T1(NK,I))=62.62.64
              R1=T1(NK,I)-T1(NK,I)
              IF (B1157.77.65
                ARYOT=73*(N,K,I)/T(N,K,I)
                IF (ARYO>0.1) 0.1157.57.65
                R2=T3(N,K,I)-(N,K,I)
                HANT=B2/B1
                IF (HANT<-1.1) 57.58.58
                T(K,N,K,I)=T(N,K,I)*XX(X,K,I)+T(N,K,I)*XX(X,K,I)+T3(N,K,I)*XX(X,K,I)
                GO TO 56
            58 BO=1./HANT
            BO=LOG(BO)
            BO=BO/DELT
            AOPR2=**2/(R2-B1)
            CO=T3(N,K,I)-AO
            T(N,K,I)=T(T(N,K,I)-CO)*(1.+RI(K)*BO)-AO=AOM*BO+RO(K)/AELT/DELT/B
            10**2+CO
            GO TO 56
            62 T(N,K,I)=T(N,K,I)*RO(K)*D.405/AELT/DELT/XTM(K,I)
 56 CONTINUE
      NK=MNK-1
      DO 71 K=1,IX
        DO 71 N=0,0
        K1=K-1
        K2=N+1
        TFK1=75.75.74
        DO 72 N=1,1
          80=0.0+(N,K,I)*XTM(N,1)
        72 CONTINUE
        DO 75 DO 13 NK2,NX
          80=0.0+T(N,K,I)*XTM(N,1)
        75 CONTINUE
        T(K,N,K,I)=T(N,K,I)*0.02
        DO 820 DO 80NK,NX
          DO 80OK,NX
            Q(K,I)=0.
            DO 800 N=0,NX
              800 Q(K,I)=N
              800 T(K,N,K,I)=T(N,K,I)+VOL(N)*XTM(N,1)*T(N,K,I)
            820 Q(K,I)=0.
            860 @K,I)=0.(K,I)*VOL(K)
            860 IF (LEAKY)>90.830.870
            830 DO 850 K=1,IX
              850 DO 850 NK=MNK-1,MX

```

SUBROUTINE GEOMX
 COMMON /ANL1/ T(25,25,30)
 COMMON /ANL2/ DELT,TAJ,ICX
 COMMON /ANL3/ AT(10),ANT(10),AKT(10)
 COMMON /B1GL/F(25,30),H(25,30),RC(25,30),VOL(25,30),RAD(25),DV(30),V(30)MAIN.005
 1, MBL(25),H(125,30),XTM(25,30),XAM(25,30),NRtbl(25),ISTBA(25),1STBA(25),1STBM
 2B(25),1STSE(25),1STBG(25),CONCA(25,30),CONTC(25,30),XAT(25,30),XST(25,30),XATC
 35,30),S25,30),IX,NAK,XPCN,ISDX(SOXE,LEAKT,IPAGE,IDENT,IMX,IBY,ITCMIN,INR,INHMAIN.008
 4NT,ENORM,EPSAROLD,RNEW,ININOUT,INTL,IS,INPUN,TEAR,FVSTR,INRL,XNUFT(25,30),XNUFT(25,30),
 5U(30),XNUFT(25,30),FX(30),XFT(25,30),XNUFT(25,30),XAC(30),MAIN.01,
 6ICX,P(30,10,8),
 DIMENSION ENK(3),DX(25),X(26)
 MAX2

LT5=LEAKT
 FORMAT(915),
 15 NPAGE=NPAGE-1
 WRITE(6,30) IDENT,NPAGE
 25 FORMAT(1THI THERMOS CASE NO.15,6H PAGE13)
 30 FORMAT(1THI THERMOS CASE NO.15,6H PAGE13)
 35 WRITE(6,40) NRX
 40 FORMAT(21H FULL SLAB, REGIONS=13)
 LEAKT=1
 GOTO52
 45 WRITE(6,50) NRX
 50 FORMAT(20H HALF SLAB, REGIONS=13)
 LEAKT=1
 GOTO62
 55 WRITE(6,60) NRX
 60 FORMAT(20H SLAB CELL, REGIONS=13)
 LEAKT=1
 N=1
 GEOF199
 GEOF200
 GEOF201
 GEOF202
 GEOF203
 GEOF204
 GEOF205
 GEOF206
 GEOF207
 GEOF208
 GEOF209
 GEOF210
 GEOF211
 GEOF212
 GEOF213
 GEOF214
 GEOF215
 GEOF216
 GEOF217
 GEOF218
 GEOF219
 GEOF220
 GEOF221
 GEOF222
 GEOF223
 GEOF224
 GEOF225

```

FORTRAN D -730801- (V-05,L-01)          COMPILATION    75.01.21   FORTRAN D -730801- (V-05,L-01)          COMPILATION    75.01.21
      X=K-0.5*DXA
      VOL(N)=DXA
      RAD(N)=X
      WRITE(6,200)N,DXA,X
      IF(NM-NX)71,75,75
      NM=N1
      NC=NC+1
      IF(NC-NP)72,73,73
      X=X*DXA
      72  GOTO70
      X=X-0.5*DXA
      73  CONTINUE
      DOBK=1,NX
      DOBO=1,NX
      DOBI=1,NX
      T(I,J,K)=0,
      NFT=0
      CALLSLARK(X,X*X,X,NFT)
      NFT=1
      DO1000K=1,1
      DO1001=1,NX
      NX(I)=VOL(I)*XTM(I,K)
      100  XT(I-1)=XT(I)+DX(I)
      ALAH=2,*XT(NX+1)
      D0260J=1,NX
      D0260J=1,NX
      D1=DX(I)
      DJ=DX(J)
      DELTAJ=VOL(J)
      X=XT(J)-XT(I)
      IFC(I-J)120,130,120
      120  CALL SLARK(X,D1,DJ,A,NFT)
      T(I,J,K)=T(I,J,K)+A
      IF(LTST1260150)140
      140  X*X+ALAM
      IFC(X-6,)120,150,150
      150  X=XT(J)+XT(I+1)
      160  CALL SLARK(X,D1,DJ,A,NFT)
      T(I,J,K)=T(I,J,K)+A
      170  IF(LTST12501250)180
      180  X*X+ALAM
      IF((X-6.)160,190,190
      190  X*ALAM-X*(J+1)*T(I+1)
      200  CALL SLARK(X,D1,DJ,A,NFT)
      T(I,J,K)=T(I,J,K)+A
      210  X*X+ALAM
      IF((X-6.)230,250,250
      220  X*ALAM-X*(J+1)*T(I+1)
      230  CALL SLARK(X,D1,DJ,A,NFT)
      T(I,J,K)=T(I,J,K)+A
      240  X*X+ALAM
      IF((X-6.)230,250,250
      250  CONTINUE
      MAX=3
      D0270J=1,NX
      *DX(I)
      276  CALLE((X**MAX,ENX)
      IFC(X277,278,277
      277  T(I,J,K)=T(I,J,K)+VOL(I)*(X-0.5+ENX(3))/(X*X)

```

SUBROUTINE E1(X,NX,ENX)
DIMENSION ENX(10)

```

      GEOMX043  GO TO 270
      GEOMX044  T(I,J,K)=T(I,J,K)+VOL(I)*ENX(I)/2,
      GEOMX045  DO 300 J=1,NX
      GEOMX046  DO 300 I=1,NX
      GEOMX047  DO 300 J=1,NX
      GEOMX048  DO 300 I=1,NX
      GEOMX049  DO 300 J=1,NX
      GEOMX050  DO 300 I=1,NX
      GEOMX051  DO 300 J=1,NX
      GEOMX052  F(J,I)=0,
      GEOMX053  DO1100 I=1,NX
      GEOMX054  F(J,I)=F(J,I)+XTM(I,K)*VOL(I)*T(I,J,K)
      GEOMX055  1100 F(J,I)=F(J,I)/VOL(J)
      GEOMX056  NPAGE=M*GF+
      GEOMX057  WRITE(6,301)IDENT,NPAGE
      GEOMX058  WRITE(6,1120)(C(J,K,F(C,J,K)),J=1,NX),K=1,NX
      GEOMX059  1120 FORMAT(L1HOK,I1,Q(K),J=1,NX)
      GEOMX060  1010 IF(LEAKT)1010,1010,1160
      GEOMX061  DO1150K=1,1
      GEOMX062  DO1150J=1,NX
      GEOMX063  DO1150I=1,NX
      GEOMX064  1150 T(I,J,K)=T(I,J,K)/F(C,J,K)
      GEOMX065  1160 CONTINUE
      GEOMX066  RETURN
      GEOMX067  2010 FORMAT(5SH-----)
      GEOMX068  2010 FORMAT(5SH-----)
      GEOMX069  2020 FORMAT(1P1E15.5)
      GEOMX070  2030 FORMAT(25,1P1E15.5,1PE15.5)
      END
      GEOMX071
      GEOMX072
      GEOMX073
      GEOMX074
      GEOMX075
      GEOMX076
      GEOMX077
      GEOMX078
      GEOMX079
      GEOMX080
      GEOMX081
      GEOMX082
      GEOMX083
      GEOMX084
      GEOMX085
      GEOMX086
      GEOMX087
      GEOMX088
      GEOMX089
      GEOMX090
      GEOMX091
      GEOMX092
      GEOMX093
      GEOMX094
      GEOMX095
      GEOMX096
      GEOMX097
      GEOMX098
      GEOMX099
      GEOMX100
      GEOMX101
      GEOMX102
      GEOMX103
      GEOMX104

```

POINT THICKNESS POSITION
----- ----- -----
----- ----- ----- ----- -----

```

      ENX(I)=1.0E+30
      IF(NX-1)150,150,35
      DO101=2,NX
      A*FLOAT(I)
      ENX(I)=1,(A-1.)
      GOTO150
      IF(X-75,200,60,60
      DO101=1,10
      ENX(I)=0.
      GOTO150
      A=EXP(-X)
      GEOMX091
      IF(X-1.0)90,120,120
      B=LN(X)
      IF(X-0.01)100,100,110
      ENX(I)=X-B,0.771215665
      G010130
      EN((1))-577215665-B*X*(1.+*(-1.25+X*(-.0535555555+X*(-.0104166666+X*1.021
      1C.16666666E-2*X*(-.23148147E-3+*(-.31001981E-5+X*1.022
      2.361924E-6))))))
      G010130
      B=2.372903*X*4.53079235*X*(5.1266902*X)
      C=-4.766331*X*(8.6660126*X*(6.1265272*X))
      EN((1))=(X*X)/C
      IF(NX-1)110,120,135
      DO140I=2,NX

```



```

FORTRAN D -730801- (V-05,L-01) COMPLIATION 75.01.21 FORTTRAN D -730801- (V-05,L-01) COMPLIATION 75.01.21
      WRITE (6,2390) NR1,NRF,PHIBAR,FNBAR
      WRITE (6,2395)
      DO 3025 1-NR1-NRF
      TENTB(2)=NFF((1))/PHIBAR
      TENTB(1)=ADEV((1))/FNBAR
      WRITE (6,2400) 1,TEMTB(1),TEMTB(2)
      3025 CONTINUE
      1070 NPAGE=NPAGE+1
      WRITE (6,2100) IDENT,NPAGE
      WRITE (6,2100) IXP1,IXP2,A1,A2,B1,B2
      WRITE (6,2350)
      9   WRITE (6,2360)
      NR1
      1080 NRMTBL(N)
      DO 1090 J=1,10
      1090 TENTA(J)=0
      1091 DO 1092 TENTB(J)=0,J=1,10
      1092 TENTB(J)=0,0
      DO 1100 I=1,XP1,IXP2
      TENTB(1)=TENTH((1)+F*(N+1))
      TENTB(2)=TEMTB(2)+(N-1)*V((1))
      TENTB(3)=TEMTB(3)+F*(N+1)*V((1))
      TENTB(4)=TEMTB(4)+F*(N+1)*XAM(N+1)
      TENTB(5)=TEMTB(5)+F*(N+1)*XAM(N+1)
      TENTB(6)=TEMTB(6)+F*(N+1)*XTBN((1))
      TENTB(7)=TEMTB(7)+F*(N+1)*XFND((N+1))
      TENTB(8)=TEMTB(8)+F*(N+1)*XTRN((1))
      TENTB(10)=TEMTB(10)+F*(N+1)*EXTN((1))
      1100 TENTB(9)=TEMTB(9)+F*(N+1)*V((1))
      DO 1110 J=1,8
      1110 TENTA(J)=TENTH((J))-TEMTB(J)
      TENTA(10)=TEMTA(10)+TEMTB(10)
      DO 1101 TENTB(J)=TEMTB(J)-TEMTB(J)
      1101 MANTBL(N)
      WRITE (6,2370) NR,NR,N,(TEMTB(J)),J=1,5
      NR+1
      IF (I>=NR) 1130,1140
      1130 IF (NRIBL(N)-NR)>1140
      WRITE (6,2380) NR,(TEMTB(J)),J=4,8
      CT5((XP1,NR)-TEMTA((10))/SUMFVN(R))
      CXAM((XP1,NR)-TEMTA((6))/SUMFVN(R))
      CNFH((XP1,NR)-TEMTA((7))/SUMFVN(R))
      DO 1150 J=1,3
      1150 TENTC(J)=TENTA(J)/SUMDV(NR)
      DO 1160 J=4,8
      1160 TENTC(J)=TEMTA(J)/SUMVOL(NR)
      WRITE (6,2150) NR,(TEMTC(J)),J=1,3
      WRITE (6,2151) NR,(TEMTC(J)),J=4,8
      DO 1171 J=1,3
      1171 TENTC(J)=TENTA(J)/SUMFV(NR)
      WRITE (6,2340) NR,(TEMTA(J)),J=4,8
      IF (N>NR) 1080,1080,1170
      1170 IF (IXP1((2))>171,1172,1171
      1172 IF (IXYS1(13)>13,1480,1173
      1173 CONTINUE
      1CONE=CONE+1
      GO TO 1480
      1171 IF (KNOPX,F0,1) GO TO 1311
      DO 1310 J=1,150
      1170 NPAGE=NPAGE+1
      1190 NPAGE=2600 IDENT,NPAGE

```


FORTRAN D. -730801- (V-05,L-01)
CALL, FLINE(GA,YZ,-KZ,1,1,13)
DO 2 L=1,11MA
ROZ(L)=ROZ(LY/GAKKY)
CALL, PLOT(ROZ(CL),0,*,2)
2 CALL, PLOT(ROZ(CL),230,*,2)
CALL, PLOT(0.,0.,0.999)
RETURN
END

COMPILEATION 75.01.21

あとがき

この報告書は THERMOS のプログラムを改良したものをまとめたものである。この改良により、JMTTR で毒物入り燃料、高速炉用燃料等を照射する場合も、軽水炉用燃料の場合と同様の精度で発熱量を予測する事が出来る様になった。必要な計算機容量は若干増えたが、計算時間は殆ど増えていない。現在の THERMOS コードには無駄な計算を行っている部分があり、そこを簡略化したからである。

輸送核計算法の改良と、燃料集合体の熱群定数計算のための出力変更は飯田が、中性子密度空間分布のプロッタによる図示は永岡が担当した。また、計画課運転計画係の皆様には多くの助言と援助をいただいたので感謝します。

参考文献

- 1) 伊勢武治, 堀上邦彦 JAERI-memo 4394 「熱群炉定数作成コード : THERMOS-MUG」 1971.4.
- 2) H. C. Honeck BNL-5826 "THERMOS, a Thermalization Transport Theory Code for Reactor Lattice Calculation" 1961.